

モンゴル国の『ジャンガル』テキストの蒐集と そのテキストに関する若干の問題

D・塔亜（内モンゴル大学）

〇、はじめに

現在のモンゴル国は『ジャンガル』の口頭伝承と書面伝承の重要な地域の一つである。しかしながら、中国の研究者が、モンゴル国における『ジャンガル』の口頭伝承は「20世紀中葉まで」存在し、蒐集されたテキストは「30編弱」であるとし、特にU.ジャグドスレン（U.Jaydasüring/У.Зaгдсүрэн, 1919-1986）氏の“Жангарын тууль”（1968）と“Аянан алдарт аялган Хонгор”（1978）という二冊の著作だけを検討の対象に挙げてきたのは周知の通りである。またモンゴル国の研究者は2011年、『ジャンガル—モンゴル国の領内から採録された「ジャンガル」の各章（Жангар: Монгол Улсын нутаг дэвсгэрээс тэмдэглэсэн “Жангар”-ын бүлгүүд）』という著作を出版し、ここに「モンゴル国の領内から採録された英雄叙事詩「ジャンガル」のテキストが基本的に網羅されている」と、その意義を強調している。

今回の発表において、英雄叙事詩研究の理論と方法論を用いて、モンゴル国の領内から採録された英雄叙事詩「ジャンガル」の公表されたテキストの篇数とその刊本の採録及びテキストと刊本の両方面から概観し、それに関わる諸問題について管見を述べ、大家の意を仰ぐ所存である。

一、『ジャンガル』テキストの蒐集

- 1-1 20世紀前半
- 1-2 20世紀後半
- 1-3 21世紀初頭

二、『ジャンガル』の刊本

- 2-1 単章テキストの出版
- 2-2 複章テキストの出版
- 2-3 テキストの翻訳・転写出版

三、終わりに

『ジャンガル』研究者たちは、120年余りの年月を費やし、モンゴル国領内で採録された『ジャンガル』の口頭及び各種の写本テキストの伝承の中から、38篇のテキストを公表することができた。しかし、研究者たちのモンゴル国領内で採録された『ジャンガル』のテキストに関する認識の相違、採録されたテキストの情報とデータの不備、また近年の『ジャンガル』の新たなテキストの公表などの諸事情により、国内外において現在まで比較的完全な刊本はまだ出版されていない。

特に中国において、モンゴル国の『ジャンガル』の完全かつ学術的に信頼できる刊本の出版が現状ではまだ実現できていない。私たちにとって、モンゴル国の『ジャンガル』のテキストを精確に研究し批判するためには、まずそれらのテキストを全部刊行することが急務である。